

京都市の学校評価

～学校評価の充実・改善に向けた取組～

京都市教育委員会

よりよい学校づくりと学校評価

- ① 学校評価をみんなのものにする
 - 一人一人が評価者の視点を持つ・評価と実践をつなぐ
- ② 学校の魅力を発見し、発信する
 - 課題発見・魅力発見型の新しいアンケート手法の活用
- ③ 自らを振り返り、互いに高め合う
 - それぞれの立場から、自らの役割、関わりを振り返る
- ④ 当事者意識を持って評価する
 - 年間を通じて評価活動に参画する

学校を元気
にする評価

よりよい学校づくりと学校評価

① 学校評価をみんなのものにする

- 学校教育目標，学校経営方針の共有
- 評価項目の共有（学校経営方針，学級経営方針と評価をつなぐ）
- 評価結果の共有と改善策（実践）の共有

一人一人が評価者の視点を持つ

→ 評価と実践をつなぐ

よりよい学校づくりと学校評価

② 学校の魅力を発見し，発信する

- 学校のよさ（魅力）が見える評価の工夫
- よさの共有，魅力の共有
- 学校の魅力の積極的な発信

課題発見型・魅力発見型の新しいアンケート手法の導入

→ 慶應義塾大学との共同研究（学校評価支援システム）

よりよい学校づくりと学校評価

③ 自らを振り返り，互いに高め合う

- 教育活動を振り返る，指導を振り返る（教職員）
- 子育てを振り返る（保護者・地域）
- 学びの姿勢を振り返る（児童生徒）

学校だけが評価されるのではない

→ 足りないところを補い合い，高め合う双方向の関係

よりよい学校づくりと学校評価

④ 当事者意識を持って評価する

- 年間を通じた評価活動の実施
- 日常的な学校教育活動への参画
- 改善のための支援策を含めた学校関係者評価

子どもの学校生活をよりよいものにするために

→ 一人一人がそれぞれの立場でできることを

改めて問題提起

学校評価をみんなのものに

みんなとは

- ・ 教職員みんなのものに
- ・ 子どもたちみんなのものに
- ・ 保護者みんなのものに
- ・ 地域住民みんなのものに

そのために

- ・ 一人一人が評価者の視点を持って自らを振り返り、互いに高め合う。



一人一人が
評価者の視点を持って
自ら振り返り、
互いに高め合う

京都市教育委員会

学校評価の基本的な考え方と年間を通じた学校評価の流れ

学校評価の基本的な考え方

学校評価は、子どもたちの学校生活をよりよいものを目指すものです。

「京都方式」のよさを生かした学校評価の充実

京都市では、平成21年6月に「京都市学校評価ガイドライン【第3版】」を策定し、開かれた学校づくりのもと、学校評価の充実に努めています。「京都方式」の学校評価は、各学校において、子どもたちをはじめ保護者や地域の方々一人一人の声を大切にするとともに、学校と家庭・地域が足りないところを批判し合うのではなく、互いに高め合う双方向の信頼関係を構築し、子どもたちの学校生活をよりよいものを目指しています。

◆PDCAサイクルにもとづく学校評価◆



年間を通じた学校評価の流れ

学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に学校改善を図っていきます。



Point

- 1 学校経営方針、学校評価年間計画、評価項目の策定・公表
- 2 学校の魅力・課題の発見につながるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ、評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と、課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用

ガイドライン改定の 3つのポイント

① 自己評価の充実

自己評価が学校評価の基本

② 学校関係者評価の充実

年間を通じた評価活動への参画

③ 公表・報告

分かりやすさが基本

「学校評価ガイドライン」改定のポイント

自己評価の充実 ……学校評価の基本となるのが自己評価です

1 学校教育目標の具体化

目標の具体化と共有を

■年度当初に、学校教育目標の実現に向けた学校経営方針を策定し、公表します

2 教職員の共通理解と計画的な評価

教職員一人一人が評価者の視点を持って

■校内で評価項目を共有し、一人一人が評価者の視点を持って、学校運営、学級経営に取り組みます

3 アンケートによる評価の実施

仮説の検証が可能なアンケートの実施を

■「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」に関する項目は必ず評価します
■児童・生徒、保護者の声を大切に評価します

4 アンケート結果を踏まえた自己評価の実施

目標達成度を教職員が評価

■アンケート結果に各種データ等を組み合わせて、多面的に分析・考察します
■自己評価結果をもとに、成果と課題、具体的な改善策を教職員全員が共有します

学校関係者評価の充実 ……年間を通じた評価活動への参画をお願いします

5 自己評価に対する学校関係者評価の実施

自己評価の結果を客観的に評価

■学校運営協議会又は学校評議員等(学校関係者)による評価委員会を設置します
■評価結果を学校関係者による評価委員会に示し、評価及び改善策・支援策を協議します

Point
学校関係者には、評価項目の検討段階から、日常の教育活動への参画・支援、自己評価結果に対する評価及び学校の改善に向けた支援策の検討など、年間を通じた評価活動への参画をお願いします。

公表・報告 ……分かりやすさを基本にします

見える 感じてる 生きる

6 自己評価結果・学校関係者評価結果の公表

結果を公表し、改善に向けた行動を共有

■学校の魅力、課題を焦点化し、改善策を明記して、見やすく、分かりやすい記述にします
■自己評価結果、学校関係者評価を合わせて公表します(評価表の工夫)

7 教育委員会への報告

評価結果を教育委員会が活用

調査票の作成および集計 (推奨)

① 学校評価支援システム

- ・ 慶應義塾大学との提携
- ・ 効果的・効率的な評価

② かんたん調査票作成

- ・ マークシート方式
- ・ 対話型の作成ソフト

③ かんたん調査票読み取り

- ・ 簡単・便利・高速

より効果的・効率的に行える評価を!

簡単!便利!
集計が早い!

かんたん調査票作成ソフト、かんたん調査票読み取りソフトの活用を推奨しています。

京都市では、慶應義塾大学との共同研究による、新しい学校評価支援のソフトの活用を推奨しています。各学校での学校評価の省力化、効率化を図るとともに、よりきめ細かく多面的な分析が可能になります。

◆かんたん調査票作成ソフト

画面を見ながら、手順に沿って簡単にマークシート方式のアンケートを作成

特に、重要度と実現度を問う「二重調査型」アンケートを推奨

◆かんたん調査票読み取りソフト

ドキュメントスキャナで読み取った画像を高速で処理・集計

かんたん課題分析データベース (推奨)

① 見える評価

重要度・実現度・ニーズ度

- ・ 学校の魅力が見える
- ・ 学校の課題が見える

② 生きる・活かせる評価

- ・ 魅力と課題を焦点化
- ・ 意識のずれを視覚化
- ・ 回答に表れた願いを反映

見える評価・生きる評価・活かせる評価を!

魅力と課題を発見する「ニーズ調査型」アンケート手法・分析手法を推奨しています。

「重要度」と「実現度」を問う「ニーズ調査型」アンケートの活用により、かんたん分析データベースで、それぞれを分かりやすく数値化。

学校評価支援システム（ニーズ調査型アンケート）の活用で、自動的に分かりやすい分析結果を表示!!

◆分析結果

項目	重要度	実現度	ニーズ度
子どもが適切な言葉づかいをすること	5.0	3.9	2.71
子どもが基本的な生活習慣を身につけること	5.5	4.4	2.38
子どもが学校の活動に参加し、楽しんで生活すること	6.7	4.6	2.29
子どもが他人を思いやり、親睦すること	5.0	4.4	2.25
子どもが楽しく学んでいること	5.0	4.4	1.84
子どもが将来の夢や希望について考えること	5.3	3.8	3.02
子どもが家庭で読書活動を楽しむこと	5.9	5.1	1.74
学校の人が、人権を大切にした教育活動を行うこと	5.9	5.1	1.84
学校の教育活動が保護者に伝わっていること	5.5	4.6	1.67
学校により、学校のホームページで、学校の日常の様子や活動がわかること	5.1	5.2	1.71

重要度は、重要度が高い項目(最高7.0)
 実現度は、実現度が低い項目(最高7.0)

重要度は高く、実現度が低い項目(25.0以上)。この項目を重点課題に位置付けるなど、回答に表れた願いを学校の取組に反映させることができます。

重要度と実現度を軸として、評価結果を相対化した分布表を作成

◆分布

重要度	実現度	項目
重要度も実現度も高い項目	重要度が高く、実現度が低い項目	学校の魅力
重要度が低く、実現度が高い項目	学校の課題	

重要度と実現度の関係を相対的にとらえることで、教職員や保護者の意識のずれや学校の魅力、課題を視覚的にとらえることができ、焦点化した分析が可能になります。

Point
 学校評価の結果が見えること、生きること、活かせることが重要です。新しい学校評価支援システムの活用で、自校の魅力と課題を焦点化し、絞り込んだ分析と改善策の提示が可能になります。

結果の公表と報告

① 学校評価表 (推奨)

- ・ 焦点化した簡潔な分析と改善策の提示
- ・ アンケートによらない指標の活用

② 報告書 (統一書式)

- ・ 支援に生かす一つの資料
- ・ 設置者への報告の義務化

簡潔で見やすく、分かりやすい公表と報告を!

学校の魅力や課題が見える、分かるよう簡潔な学校評価表を推奨し、報告書を統一します。

各学校において、魅力と課題を焦点化し、具体的な改善策が見える公表を工夫しましょう。

学校評価表 (推奨)	何を	何によって
1. 学校の魅力	コミュニケーション能力の育成	児童による学習アンケート調査
2. 学校の課題	自分の考えを話し合える異年齢異学年別活動	異年齢別授業と年間10時間以上実施要件別
3. 学校の課題	豊かな学びの時間の充実	地域の教育資源の活用状況
4. 学校の課題	豊かな体験活動の実施	教職員アンケートと児童アンケートによる調査分析
5. 学校の課題	特別な支援を必要とする児童の居場所の確保	社会体験活動の取組の充実と児童アンケートによる調査分析

焦点化した、簡潔な分析と改善策の提示

アンケートによらない評価指標も活用

報告書 (統一)	支援の材料として活かすための統一書式
1. 学校の概要	学校の概要、児童数、学年別児童数、男女別児童数、外国人児童数、障害児数、特別支援学級数、特別支援教室数、特別支援室数、特別支援施設数、特別支援活動数、特別支援活動の実施状況、特別支援活動の実施回数、特別支援活動の実施内容、特別支援活動の実施効果、特別支援活動の実施課題、特別支援活動の実施改善策
2. 学校の魅力	学校の魅力、学校の課題、学校の取組、学校の成果、学校の改善策
3. 学校の課題	学校の課題、学校の取組、学校の成果、学校の改善策
4. 学校の課題	学校の課題、学校の取組、学校の成果、学校の改善策

学校評価Q&A

- ① 学校評価をみんなのものにするためには
- ② これからの自己評価とは
- ③ 京都市における学校関係者評価とは
- ④ 評価結果の公表は

学校評価 Q & A

◆学校評価をみんなのものとするためにどのように取り組めばいいのですか？

「学校評価」は、まず、**教職員一人一人が評価者としての視点を持ち**、学校経営方針を踏まえた各学級の経営の方針等と評価項目・評価指標との関連を意識し、よりよい学校、学級づくりに活かしていくものです。そのために、各学校は、校内評価委員会を中心に全教職員が評価項目・指標を共有し、学校教育目標の具現化に向けた教育活動に取り組み、成果と課題を学校全体で「自己評価」し、学校改善に結び付けます。合わせて、保護者・地域の方々による「学校関係者評価」を実施し、それぞれの評価結果を公表します。

こうした取組により、「**学校評価**」が**教職員はもとより、保護者・地域の方々も含めた「みんなのもの」となり**、**学校・家庭・地域が一体となって「子どもたちの学校生活をよりよいものとする」ことを目指すもの**として、学校運営において重要な役割を担います。

教育委員会もこれらの「学校評価」の結果報告をもとに、各学校のよさや課題、改善の方向性を共有し、その報告を学校に対する支援策を検討する際の判断材料として活用します。

◆京都市における「学校関係者評価」はどういったものですか？

「学校関係者評価」は、学校の示した自己評価結果に対して、学校運営協議会委員や学校評議員など学校関係者で組織された評価委員会で、自己評価の客観性、妥当性について評価を得るものです。

とりわけ、京都市では、学校関係者が評価に関わるだけでなく、**学校経営方針を踏まえた評価項目の作成段階から、日常の教育活動に積極的に参画し、当事者意識を持った評価、学校改善に向けた支援策の検討を行うなど、年間を通じて評価活動に関わっていただくこと**を目指しています。

◆これまでの教職員による評価とこれからの自己評価とはどう違うのですか？

「自己評価」は、学校評価の基本になるものです。これまで、各学校では、教職員、児童生徒、保護者へのアンケートのうち、教職員アンケートを教職員による「自己評価」として位置づける事例が多くありました。

しかし、これからは、そうしたアンケートとともに、**アンケートによらない評価指標も加え、学校が多面的に自らの教育活動を振り返った結果を「自己評価」として位置づけます。**

◆評価結果を公表するとき、どういったことを留意すればいいのですか？

これまで、アンケート結果を設問別にグラフ化し、個々にコメントをつけて、細かな公表する学校が多かったですが、今後、各学校は、**できるだけよさや課題を焦点化し、保護者や学校関係者に見やすく、分かりやすい公表**を心掛ける必要があります。さらに、各学校による学校評価結果の公表の源、よりよい学校づくりに向けた改善策が明確に示されることが大切です。

さらに、京都市では、評価結果の分かりやすさに加えて、学校評価が組織的・継続的な学校改善や教育水準の向上につながる、生きる評価・活かせる評価となることを目指し、各学校に対して、**慶應義塾大学と共同研究を進めている「魅力発見・課題発見型の新しいアンケート手法」の積極的な活用や学校の魅力、課題を焦点化して分析できる「学校評価表」の活用を推奨**しています。

京都市教育委員会 指導部 学校指導課
〒604-8571 京都市中京区寺町通閑池上る上本能寺前町489番地
TEL 075-222-3747 FAX 075-231-3117
ホームページアドレス
<http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/soshiki/29-2-9-0-0.html>

地域ぐるみで進める学校評価

- ① 地域の子どもは地域で育てる
 - 学校・家庭・地域の連携・協力
- ② 目指す子ども像，学校像の共有
 - 義務教育の小中9年間で目指す姿
- ③ 目標の共有から行動（実践）の共有
 - 当事者意識を持った学校教育活動への参画
- ④ 評価をつなぐ
 - 地域や子どもの実態を踏まえた共通評価項目の設定